

法宝物を守り伝える

総務 藤谷 知良

言 頭 卷

三月初旬より、約五十年間高田の法宝物を守ってきた宝物館の解体工事がはじまりました。二年先の御開山聖人御誕生八五〇年特別法要の記念事業として新しく宝物館を建設するための工事です。解体から新宝物館完成までの間、多数の法宝物は三重県立博物館（ミエム）の収蔵庫でお預かりいただいております、これを機に写真撮影も進められているところです。

現在の宝物館は御開山聖人七〇〇回大遠忌法要を記念して昭和三十七年に建設され、六十年の間法宝物を守り続けてきました。そこには、高田派の檀信徒であれば誰もが慣れ親しんでお勤めする三帖和讃や聖人が師である法然上人のことについてお書きになられた西方指南抄が国宝として、また聖人のお手紙である御消息など世界に二つとないものが数多く残されています。

この多くの宝物が大切に守られてきたのはステータスやプライドを守るためではありません。宝物には、煩惱具足の私やあなたに働きかけて頂いている阿弥陀仏の本願が説かれています。その弥陀のよび声に応え御名号を称えたならば必ず救うという他力本願の教えにあわせてあげたいと思う気持ちにはありません。

そして、その教えが私たちに届いたことは非常に稀なことであり、大変有り難いことです。御歴代上人をはじめ各寺院代々の御住職並びに檀信徒の方々は、八〇〇年の長きにわたり多くの宝物を私たちに届けていただきました。その思いは、ひとえに後の人々が浄土へ救われることを願うことです。

緋御書には「マメヤカニ法義ヲ相続シテ洪恩を報謝スベキコト肝要ナリ」とあります。

宝物を授けて頂いた私たちが今しなければいけないことは、その大恩に感謝をし、また後の人々に法義を守り伝えていくことだと思います。

今まさに、弥陀のよび声「なもあみだぶつ」を聞いてゆこうを特別法要のテーマとし、『親鸞聖人の教えに出会う宝物館』として二年後の新宝物館完成を目指しております。

宗 告

宗 告 第一一〇九号

来る令和三年五月二十一日午前十一時三十分より宗祖降誕会執行相成る

令和三年四月二日

宗務総長	大僧都	増田修誠
総務	中僧都	藤谷知良
総務	律師	弓削弘胤

任 免

令和三年三月一日

選挙管理委員を命ずる

延命寺住職	律 師	藤田 一義
松原寺住職	権中僧都	上杉 祥樹

依請解其職

令和三年三月三十一日

依請解其職

知堂	長松 真見
侍者	高島 光憲

選挙管理委員

中川 和則

令和三年四月一日

予備知堂を命ずる

欣浄寺住職 権大僧都 長松 真見

知堂見習いを命ずる

大円寺住職 大律師 高島 光憲

令和三年四月一日

真宗高田派専修寺北海道別院総代を委嘱する

北海道別院 宇高 健司

真宗高田派専修寺北海道別院責任役員を委嘱する

北海道別院 谷川 清明

依請解其職

北海道別院責任役員 岩田 祐一

侍者を命ずる

松原寺住職 権中僧都 上杉 祥樹

任 真宗高田派本山専修寺宝物館館長 大野 照文

組長交代

令和三年四月一日

三重第八組組長を命ずる

轉輪寺住職 明星 隆文

令和三年三月三十一日

依請解其職

三重第八組組長 高藤 秀憲

住職

令和三年三月二十七日

福井県坂井市三国町加戸

本流院衆徒 秦 一心

補 本流院住職

依請解其職

本流院住職 秦 顕乗

補 三重県亀山市東町 福泉寺住職

福泉寺衆徒 佐々木妙理

三重県津市西古河町
補 光澤寺住職

光澤寺衆徒

比良多道寛

三重県鈴鹿市国府町
補 光福寺住職

光福寺衆徒

川口 博道

副住職任命

令和三年二月二十一日

三重県桑名市南寺町
任 常信寺副住職

常信寺衆徒

村井 博陸

令和三年三月二十八日

三重県鈴鹿市国分町
任 光福寺副住職

光福寺衆徒

川口 妙和

得度

令和三年三月二十七日

三重県四日市市富田一色町

龍光院 顕真 准上座格一等 龍泉寺衆徒

龍池 顕真

三重県四日市市楠町南五味塚

醍明院 光了 准上座格三等 立法寺衆徒

岡 光了

三重県津市一志町大仰

陽光院 妙覚 老分二等 浄泉寺衆徒

稲垣あかね

身分堂班

令和三年三月十日

列 其身一代堂班

中老一等、老分二等、老分一等

院家二等

光福寺衆徒

川口 博道

令和三年三月十五日

列 其身一代堂班 上座二等 上座一等 本流院衆徒

秦 一心

布教任命

二月御影堂常在説教（晨朝）

二・一	律 師	隆	妙灑
二・二	少 僧 都	岡	知道
二・三	権中僧都	藤田	正知
二・四	権中僧都	中村	宣成
二・五	権中僧都	里榮	秀教
二・六	中 僧 都	青木	義成
二・七	少 僧 都	青木	妙法
二・八	権中僧都	藤浦	弘導
二・九	権中僧都	鷲山	了悟
二・一〇	権中僧都	田中	明誠
二・一一	権少僧都	真置	信海
二・一二	権中僧都	村上	英俊
二・一三	律 師	若林	妙百

二・一四	律 師	田中	唯聽
二・一五	権中僧都	中村	宣成
二・一六	権中僧都	田中	明誠
二・一七	大 律 師	久世	宜範
二・一八	大 律 師	塩崎	慶脩
二・一九	大 律 師	北畠	大道
二・二〇	中 僧 都	佐藤	弘道
二・二一	権少僧都	真置	信海
二・二二	少 僧 都	上田	英典
二・二三	中 僧 都	青木	義成
二・二四	律 師	古芝	智泉
二・二五	大 僧 都	上田	隆順
二・二六・二七	権大僧都	浦井	宗司
二・二八	大 律 師	高島	光憲

二月御影堂常在説教（逮夜・日中）

二・二七	律 師	隆	妙灑
二・二八	少 僧 都	山中	真諭
二・二九	律 師	水谷	忍英
二・一〇	権中僧都	藤浦	弘導
二・一五	少 僧 都	山中	真諭
二・一六	権少僧都	高藤	英光

讚佛会復演

三・二〇 日中 大僧都 清水谷正尊

三・四

權中僧都 田中 明誠

讚佛会

三・一七 晨朝 權中僧都 中村 宜成

三・八

權中僧都 中村 宜成

三・一八 日中 律 師 隆 妙灑

三・九

權中僧都 中野 達照

三・一九 晨朝 權中僧都 田中 明誠

三・一〇

中僧都 佐藤 弘道

三・二〇 日中 少僧都 花山 光瑞

三・一一

少僧都 岡 知道

三・二一 晨朝 少僧都 千草 篤昭

三・一二

少僧都 玉野 章法

三・二二 日中 中僧都 山中 真諭

三・一三

權中僧都 生桑 崇等

三・二一 晨朝 律 師 若林 妙百

三・一五

權少僧都 真置 信海

三・二二 日中 權大僧都 真昌 智海

三・一六

大僧都 上田 隆順

三・二三 晨朝 權大僧都 東雲 正乘

三・二〇

御 親 教 安藤 章仁

三・二四 日中 權中僧都 松山 智道

三・二四

權中僧都 權中僧都 北畠 心淳

三・二五 晨朝 權中僧都 鷲山 了悟

三・二五

律 師 北畠 心淳

三・二六、二七 日中 權少僧都 真置 信海

三・二六、二七

權大僧都 浦井 宗司

三月御影堂常在説教(晨朝)

三・一 權中僧都 里榮 秀教

三・二九

大律師 田中 唯聰

三・二 權中僧都 梅林 清香

三・三〇

少僧都 上田 英典

三・三 律 師 隆 妙灑

三・三一

中僧都 青木 義成

三月御影堂常在説教(速夜・日中)

三・七	速夜	中僧都	青木	義成	四・二
三・八	日中	少僧都	山中	真諭	四・三、四
三・九	速夜	律師	水谷	忍英	四・五
三・一〇	日中	権中僧都	藤浦	弘導	四・六
三・一五	速夜	少僧都	山中	真諭	四・七
三・一六	日中	権少僧都	高藤	英光	四・八
					四・九
					四・一〇
					四・一一
					四・一二
					四・一三
					四・一四
					四・一五
					四・一六
					四・一七
					四・一八
					四・一九
					四・二〇
					四・二一
					四・二二
					四・二三
					四・二四

千部法会(日中)

四・六	少僧都	千草	篤昭	四・一二
四・七	律師	水谷	忍英	四・一三
四・八	権中僧都	松山	智道	四・一四
				四・一五
				四・一六
				四・一七
				四・一八
				四・一九
				四・二〇
				四・二一
				四・二二
				四・二三
				四・二四

十万人講法会(日中)

四・九	権中僧都	藤浦	弘導	四・一七
四・一〇	少僧都	花山	光瑞	四・一八
				四・一九
				四・二〇
				四・二一
				四・二二
				四・二三
				四・二四

戦没者追弔法会(日中)

四・一一	権大僧都	真昌	智海	四・二一
				四・二二
				四・二三
				四・二四

四月御影堂常在説教(晨朝)

四・一	権中僧都	中村	宣成	四・二四
-----	------	----	----	------

権中僧都	安藤	章仁
権中僧都	田中	明誠
権中僧都	藤田	正知
権中僧都	里榮	秀教
権中僧都	中村	宣成
律師	隆	妙灑
少僧都	青木	妙法
少僧都	山中	真諭
権少僧都	真置	信海
中僧都	青木	義成
権中僧都	鷲山	了悟
権中僧都	村上	英俊
少僧都	岡	知道
少僧都	山中	真諭
律師	田中	唯聰
律師	若林	妙百
権少僧都	真置	信海
大僧都	上田	隆順
大律師	北畠	大道
律師	隆	妙灑
律師	北畠	心淳
権大僧都	東雲	正乘

敬 弔

次の方々が御往生なさいました。謹んで敬弔の意を表します。

令和三年

三・十 三重県津市一志町波瀬

浄明寺前住職 福山 利哉

贈 権少僧都

三・二十八 三重県亀山市下庄町 西蓮寺前坊守 佐々木敦子

四・七 三重県鈴鹿市加佐登 青蓮寺前住職 廣田 隆學

贈 大僧都

四・二五 大律師 高島 光憲
 四・二六、二七 権大僧都 浦井 宗司
 四・二八 少僧都 上田 英典
 四・二九 中僧都 青木 義成
 四・三〇 律 師 古芝 智泉

四月御影堂常在説教(速夜・日中)

四・一五 速夜 権少僧都 高藤 英光
 四・一六 日中 律 師 龍池 宏昭

高田慈光院 月例法会

三・一〇、一六、二六 権大僧都 浦井 宗司
 四・一〇、一六、二六 少僧都 山中 真諭

高田報徳園 月例法会

三・一五 律 師 若林 妙百
 四・一五 権中僧都 田中 明誠



報恩講懇志芳名

本年度の報恩講（お七夜）例年通り一月九日より十六日御満座まで御執行成り、念仏相続の喜びを十分に味わう事ができました。

ご懇志芳名を左のとおり記載し感謝の意を表します。（二月一日～三月末受領分）

三重県第二組甲部西

重願寺

三重県第二組甲部西

啓運寺

第四十二回住職補任研修会報告

去る二月二十日（土）午後より二十一日（日）午前中まで、住職補任研修会が、七名参加の下に開催されました。

尚、研修内容は次のとおりです。

真宗教義と高田派の歴史

九十分

声明

九十分

現状と課題（座談会）

六十分

宗教法人法・寺院規則

六十分

晨朝参拝・説教聴聞

五十分

住職道・布教道

九十分

法式作法

九十分

以上

婦人連合大会延期のお知らせ

六月六日（日）に予定しておりました、第五十六回婦人連合大会は、感染症対策のため、昨年が続いて来年へ延期とさせて頂きます。尚、報告頂いた祖師寿該当者の方には、ご寺院様に賞状と記念品をお届けさせて頂きます。

褒賞授与式中止のお知らせ

五月二十一日(金)に予定しておりました祖師寿(男子)表彰式は感染症対策のため中止とさせていただきます。尚、ご報告いただいた祖師寿該当者の方には、ご寺院様に賞状と記念品をお届けさせていただきます。

本山行事予定

(五月・六月)

四月二十五日

花まつり

中止

六月

坊守研修旅行

中止

六月

高田派青年の集い

延期

下付金のお知らせ

平成二十五年度分院号下付金、及び納骨壇加入下付金を専修寺正味財産に計上いたしました。

(令和元年五月三十一日付)

院号冥加金、及び納骨壇加入冥加金の下付金は納入された年度から、五か年を経過したものは、専修寺正味財産に計上されるため、交付出来ませんのでご注意ください。

詳しくは宗務院財務課までお尋ね下さい。

真宗高田派共済会のご案内

真宗教学奨学金

真宗高田派の寺族で真宗教学に関する研究心旺盛な者に対して、奨学金を貸与します。

- | | | | | |
|--------------------|----|-----|-----|---|
| ・高等学校生及び真宗各派の専修学院生 | 月額 | 2万円 | 若干名 | |
| ・大学生及び大学院生 | 月額 | 4万円 | 若干名 | |
| ・ | ” | 月額 | 8万円 | ” |

提出書類：所定の申請書1通、在学証明書1通(学生証の写可)
返済に関する事項を熟知下さい。

奨励金

真宗高田派の僧侶が、定められた学校に入学したときに、奨励金を支給します。

- ・奨励金 4万円

提出書類：所定の申請書1通、入学証明書又は在学証明書1通
(学生証の写し可、合格通知書は不可)

定められた学校とは、下記に該当する学校及び学科です。

真宗各派の専修学院、私立高田高等学校、大学の真宗学科及び仏教学科
短期大学の真宗学科及び仏教学科

上記の申請は毎年3月1日から5月末日までに行ってください。
申請に関する事項及び詳細につきましては共済会担当までお尋ね下さい。

給付及び申請のお問い合わせは、下記の共済会担当までお尋ねください。

〒514-0114
三重県津市一身田町2819番地
真宗高田派宗務院内

真宗高田派共済会

電話 059-232-4171

FAX 059-232-1414

人権擁護啓発活動重点項目

- 一、国際時代にふさわしい人権意識を育てよう。
- 一、子どもの人権を守ろう。
- 一、高齢者の人権を尊重しよう。
- 一、病気・部落などによる差別をなくそう。
- 一、障害者の完全参加と平等を実現しよう。

「三重県人権教育基本方針」より抜粋

令和三年四月二十五日印刷
令和三年四月二十五日発行

三重県津市一身田町二八一九番地
電話（〇五九）二三三二―四一七一
<http://www.senjuji.or.jp>

真宗高田派本山専修寺

発行所 宗務院

振替〇〇一五〇一〇一五一九四番

三重県津市一身田町七六五番地

印刷所 相和印刷所

電話（〇五九）二三三二―二〇七〇